

5:17 よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。

5:18 聖書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけません。」また、「働き手が報酬を受けることは当然である。」とされているからです。

5:19 長老に対する訴えは、ふたりか三人の証人がなければ、受理してはいけません。

5:20 罪を犯している者をすべての人の前で責めなさい。ほかの人をも恐れさせるためです。

5:21 私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちとの前で、あなたにおごそかに命じます。これらのことを偏見なしに守り、何事もかたよらないで行ないなさい。

5:22 また、だれにでも軽々しく按手をしてはいけません。また、他人の罪にかかわりを持ってはいけません。自分を清く保ちなさい。

5:23 これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶどう酒を用いなさい。

5:24 ある人たちの罪は、それがさばきを受ける前から、だれの目にも明らかですが、ある人たちの罪は、あとで明らかになります。

5:25 同じように、良い行ないは、だれの目にも明らかですが、そうでないばあいでも、いつまでも隠れたままでいることはありません。

ここで言われている「尊敬」とは「報酬」を意味しています。主のためにフルタイムで働いている人への報酬は、査定ではなく尊敬の度合いを表わすということです。この場合の尊敬とは、その働きに對

するものから、働きのための費用も含めて「二重に」という意味かもしれません。二重というのは必ずしも二倍とは限りませんが、十分に働きができるように…という考え方でしょう。

指導者は長老に限らず批判を受け易いものですから、その訴えを聞くにあたっては慎重でなければなりません。ただし本当に罪を犯しているなら責める必要があるということです。

「按主」とは、牧師など教会に指導者を認めて、職に任じるための祈りです。これなしで教会を牧している人は、自称牧師であって公同の教会からは認められていないことになります。それほど大切な按主ですから、「だれにでも軽々しく按手をしてはいけません。」とパウロが言うのももっともです。これらは教会が聖書の教えから離れて行くことがないための秩序です。

罪や良い行いは必ず「明かになる」というのが、神の国の鉄則です。主に安心して委ねましょう。主に報いていただき、さばいていただき、勝利を取っていただきましょう。

愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、

